

12月8日は学校創立記念日ですが、この日は、聖マリアの無原罪御宿りという祝日です。まず、学校の創立者聖カルメン・サジェスについて一緒に考えましょう。創立者は教育と信仰を通じて多くの人々を導いた女性であり、私たちに大切な教えを残してくれました。

聖カルメン・サジェスは、今から約175年前、1848年にスペインのバルセロナ地方、ヴィックという小さな町で生まれました。彼女の家は裕福ではありませんでしたが、幼い頃から信仰心が深く、「神に仕える生き方をしたい」と強く願いました。彼女が目指したのは、特に女性が教育を受け、社会で活躍できるようにすることでした。当時、女性が十分な教育を受ける機会はほとんどありませんでした。しかし、彼女は「教育はすべての人の可能性を広げる鍵」だと信じ、1892年に「聖マリアの無原罪教育宣教修道会」を設立しました。この修道会は、教育を通じて人々の人格を育て、信仰と知識を融合させることを目的としていました。特に貧しい人々や女性たちに質の高い教育を提供し、彼女は多くの人々に希望を与えました。

聖カルメン・サジェスが教育において特に大切にしたのは、「無原罪の聖マリア」でした。それは、マリア様がイエス・キリストのお母さんになるために神様から選ばれ、マリア様が生まれる前から特別な恵みを受けて、原罪を全く持たずに生まれたということです。神様は、イエスをこの世に送り出すために、マリア様を特別に清らかで、何の汚れもない人として生まれさせました。少し難しい話ですが、この教えの素敵ところは、マリア様になさったように、神様は私たちのことも同じように大切に思っているということです。マリア様のように清らかな心を持って生きることが、私たちにも可能だということです。

創立者聖カルメン・サジェスはこの教えに深く感銘し、その結果、彼女は教育の中で「予防教育」という教育方法を考えました。これは、間違っただけで罰や強制ではなく、正しい価値観や信仰を通して、人々が罪を犯さないで生きる道を示す教育です。彼女の考えでは、教育とは単なる知識を伝えるだけでなく、心と精神を清く保ち、神の愛に満ちた人生を送るための助けとなるものでした。

聖カルメン・サジェスの教育の特徴は、次の3つに集約されます。

一つ目は、「教育は人格を形づくる」という全人教育です。勉強は試験のためだけでなく、自分を成長させ、周りの人々を幸せにするための力をつけるものです。

二つ目は、「信仰と行動を一致させる」という統一的教育です。信仰は祈るだけでなく、日々の生活や人との関わりを通じて表れるものです。

最後に「予防教育」です。罰を恐れるのではなく、愛と正しい価値観によって、罪を避けて生きる道を学ぶことです。

では、聖カルメン・サジェスの生き方からどんなことを学べるのでしょうか？

彼女は、教育を通じて人々に「罪から離れて生きる道」を示しました。それは、信仰と愛に基づく清らかな人生を目指すことです。

私たちも、日々の学校生活や勉強を通じて、ただ知識を学ぶだけでなく、自分自身を成長させるための力をつけ、周りの人々に愛や親切を示すことができます。そして、何か迷いや困難に直面したとき、正しい道を選び取る力を育てましょう。例えば、日々の生活で、ちょっとした悪いことに誘われることがあるかもしれませんが、「マリア様だったらどうするかな？」と考えて、心を清く保つ努力をしてみることが大切です。

私たちが目標とする5つの花ことばの実践も助けになるでしょう。